

ハイライトよねやま 57

(財)ロータリー米山記念奨学会
2004年11月12日発行

1. 新潟県中越地震のお見舞いと奨学生安否情報の報告

10月23日発生した新潟県中越地震では、被害を受けられた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。当会では、被害が大きいと見られる長岡市在住の米山奨学生8名に対し、Eメールなど可能な連絡手段を通じて安否の確認を取りました。食器の損害、アパートにヒビが入るなどの被害はあったものの8名全員が無事であることが確認されました。奨学生の在籍する大学では、11月8日より授業を再開しています。

5月にスタートしたカウンセラーメーリングリストにも、長岡東RCの杉本俊夫カウンセラーから奨学生との連絡手段、異国の地で災害に遭遇した心身への配慮など、さまざまな点について逐次情報が寄せられ、災害時の対応について、まさに生きた情報交換がなされました。

2. 寄付金速報 ~米山月間の成果は.....

10月までの寄付金は、前年同期と比べ2.8%減、約1千5百万円の減少でした。普通寄付金が0.2%増、特別寄付金が5.0%減です。米山月間の成果がまだ表れていませんが、10月後半の米山関係者や奨学生の卓話により、これからご寄付いただくこともありますので、今月に期待したいところです。引き続き米山功労者、地区大会記念寄付などの推進に向けて、PR活動などご協力賜りますよう、よろしくお願いいたします。

3. 2005学年度米山奨学金の申込状況 ~全国から1,221名が応募

今年は指定校371キャンパスへの計1,379名の推薦依頼に対し、315キャンパス(84.9%)から計1,221名(88.5%)の応募がありました。推薦枠10名を受けたある大学では、日本語ができる学生がいないとの理由から実際の推薦者が1名のみとなった例もあり、地区が指定校・推薦枠を決定する前に、大学とより密なコンタクトを図ることが望まれます。

国籍別では、中国742名、韓国155名、台湾93名、マレーシア・バングラデシュ各30名など、40の国籍・地域から申し込みがありました。また、課程別にみると、修士課程の留学生在が663名と過半数を占めており、博士課程は434名、学部課程は124名でした。

来年1月中旬~2月上旬にかけて、地区選考委員会による書類選考・面接試験が実施され、3月末には新規採用者481名が決定されます。

4. 「留学交流」11月号にロータリー米山奨学金の事例紹介が掲載

月刊「留学交流」11月号【独立行政法人日本学生支援機構編集・(株)ぎょうせい発行】の特集『留学生の生活支援 - 奨学金の在り方』で、当会の宮崎事務局長による事例紹介「ロータリー米山奨学金における今後の留學生支援の展開」が4ページにわたって掲載されました。同誌は、留学生の派遣・受入や指導にあたる大学関係者・関連団体の多くが購読する専門誌です。詳しくは、こちらをご覧ください。

http://www.gyosei.co.jp/book/g_zassi/ryuugaku/ryuugaku.htm



5. 今年の「米山月間」を振り返って

寄付金が低迷する中での月間でした。今年は、広報のターゲットを“まだ米山奨学会へ寄付をしていない人”、“米山奨学金制度をよく知らない人”に絞って準備を始めました。月間資料としてロータリアン全員に配布した小冊子「米山奨学事業豆辞典」も、米山奨学金が全地区共同事業であること、その使命と期待する奨学生像、そして寄付金はどのように使われているかなどを分かりやすく説明することを目的に作成しました（1部あたりの製作費は12円）。

多くのクラブで、これを資料とし、奨学生をスピーカーとした卓話が進められました。手元に送られてくるアンケートの多くは、米山奨学事業の理解に役立ったと好評でしたが、現行の制度、国籍の比率、支給額などに対して改善が必要であるとの意見もありました。これらの貴重な意見を2006年の制度改編に役立てたいと思います。“日本のロータリーの誇り”、“留学生は未来からの大使”に恥じない奨学事業へと更なる努力を続ける所存です。



例会で母国について発表する奨学生
(第2760地区豊田中RC)

(常務理事・事務局長 宮崎 幸雄)

6. 2003年度個人平均寄付額上位クラブに聞きました

米山奨学会では、寄付増進の方策を探る一環として、9月から10月にかけて、昨年度の個人平均寄付額の上位クラブに対して、電話による寄付状況の聞き取り調査を行いました。ご協力いただいたクラブの皆さまに感謝申し上げます。主だった取り組み、意見をご紹介します。

委員長の苦勞を軽減するために、普通寄付金とは別に、会費に含めて年20,000円を納めてもらう方式にしている。【2003年度個人平均寄付額全国第2位 D-2770 吉川イブニングRC】
クラブの伝統として、毎年米山奨学会へ30,000円ずつ寄付をしている。寄付することが当たり前という感覚で、米山に対する意識が高いのだと思う。【全国第6位 D-2640 岸和田東RC】
世話クラブを引き受けることで、米山奨学生を身近に感じ、会員の方が気持ちよく寄付してくださるようだ。【全国第7位 D-2660 大阪イブニングRC / 全国第16位 D-2700 久留米東RC】
寄付袋を4種類（米山 / 財団 / ニコニコBOX / インターアクト）設けて、例会の受付テーブルに置いている。各々の会員が寄付したいときにその袋をもっていき、寄付金を入れたら記名して提出するシステムを取っている。寄付の強要はしないが、毎年米山委員長が積極的に呼びかけている。【全国第19位 D-2650 京都桂川RC】

また、同時に行った地区米山奨学委員長（前年度寄付の伸びた地区から任意に抜粋）への聞き取り調査では、「寄付は強制するものではなく、会員の理解があって初めて寄付をいただくもの」との点で、皆さんの意見が一致していました。「米山奨学事業の理念・意義を理解してもらうためには、米山奨学生との交流が一番」という考えも共通しており、奨学生を連れて卓話に回ったり、多少遠方のクラブにも世話クラブをお願いしたりと、積極的に事業理解への取り組みをされた結果が、寄付につながっているようです。

(財)ロータリー米山記念奨学会 編集担当：峯・野津・大庭
〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc会館ビル8階
Tel : 03-3434-8681 Fax : 03-3578-8281
E-mail : highlight@rotary-yoneyama.or.jp
URL : http://www.rotary-yoneyama.or.jp/